

2010年春の応用物理学関係連合講演会企画に当たって

応用物理学会講演会企画運営委員長

中川 清和

東海大学湘南キャンパスで開催される2010年春季第57回応用物理学関係連合講演会では、18の大分類分科と1つの合同セッションで一般講演3,657件、35テーマのシンポジウムなどの招待講演691件の合計4,348件の発表が、48の口頭講演会場とポスター会場(総合体育館)で行われます。半導体、光、量子エレクトロニクス、超伝導、有機分子・バイオエレクトロニクス、薄膜・表面、結晶工学、量子エレクトロニクス、放射線、プラズマエレクトロニクスなど、応用物理学に関連する多くの分科で先端的な研究成果の発表がなされる予定です。

日本経済は一昨年後半からの不景気状態から最近では若干上向いてきたと報道されておりましたが、ドバイショックなどの影響で景気・株価の2番底が懸念されている最中の講演募集となりました。さらに今回は参加登録料の改定、予稿集のDVD化、予稿テンプレートの変更などがあり、講演会が大きく変わることから、講演件数、参加者数が大幅に減少するものと危惧しておりました。しかしながら講演件数に関しましては過去5回の春の講演件数とほぼ同数となっており、関係者一同胸を撫で下ろしているところでもあります。成果発表の場として会員の皆様が本講演会を大事にしている現われと感謝しております。

今回の講演会でも応用物理学会業績賞、講演奨励賞、光・量子エレクトロニクス業績賞、光・電子集積技術業績賞などの受賞記念講演、分科内招待講演などの他、各シンポジウムで招待講演が行われます。特に、応用物理学会の企画による特別シンポジウム「応用物理学の将来ビジョン—アカデミックロードマップと発展史マップ—」では、科学技術史的視点から各技術の発展の位置づけを行い、未来を展望し応用物理の将来ビジョンを明確化することを目的として招待講演が行われます。また、応用物理学会、日本工学アカデミーが共同企画するシンポジウム「—20年後を見据える科学技術人材育成—グローバルに活躍する自立型女性・若手研究者/技術者」では、20年後に必要な科学技術人材を育成するための取組みに関する招待講演や、女性・若手研究者/技術者の育成に関するパネルディスカッションを行います。

総合体育館特設会場で、応用物理学会スクール1「コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD®)入門」、2「集積化MEMS技術—基礎から応用」を開催します。1では、第一原理計算を活用したコンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD®)に関する先端研究事例を集め、最先端の計算手法の活用方法・成果を紹介します。また2では、加速度センサ、圧力センサ、ディスプレイデバイスへの応用など、市場の伸びを示している集積化MEMS技術の基礎から応用に関して、原理、課題、最近の話題等を紹介します。

また前回に引き続き応用物理学会人材育成・男女共同参画委員会企画による「博士のキャリア相談会」を開催します。企業や研究所、応用物理学会人材育成・男女共同参画委員会社会貢献部門のキャリアアドバイザーの方々が生徒・ポストドクの就職・進学等の相談に乗ってくれます。展示会会場(総合体育館)では無線LANの提供、DVDのプリンタコーナー、コーヒー無料サービスなどがあります。また、展示業者による製品説明ブース(ワークショップ)、講演会場における壁紙広告などが実施の予定です。また、託児室の設置も継続します。参加者にとって有意義で楽しく充実した学術講演会になるよう願っております。

最後になりましたが、講演会場をご提供いただいた東海大学、ならびに現地実行委員としてご協力頂いた関係者の先生方に深く感謝いたします。